

グループホームえん



昨年度末の2月末、突如市役所から「入居者が施設でワクチン接種する時に職員も一緒に打てます。接種予定者名簿を作って3月初めに提出を」とのメール。市役所の担当者に電話をすると、先方もどたばたの様子。どたばたと名簿を作って提出。

そして入居者宛に接種券が届いたのは5月。そこから、どこで打つのかかかりつけ医と相談、往診で打ってもらえる方、外来を受診しなければならない方、さらには体調不安から主治医が接種は見送るという方、9人への対応がそれぞれ違い、ご家族にも説明。「具体的にはいつになるか未定です」と言われていたのに、これまた突如「今週の往診で打ちます」。

ではその施設入居者の接種が決まったから即スタッフも打てるかというと、これがなかなか進まず「接種券が届かないと打てません」。先が見通せないこの時期は、堀ノ内病院訪問診療の事務スタッフが窓口になって下さり、たいへん助けられた。

6月初め、市役所の配布物を取りに行くと、その上にどさりと問診票の束。よく見ると各スタッフの氏名が。堀ノ内病院に「まだ接種券は届いてませんが、名前入りの問診票が来ました」と伝えたと「あ、じゃあいつにしますか?」、え?!「接種券来てないんですけど…」、「いえ大丈夫です。」これまた突如始まったワクチン接種。そして、これを書いている7月半ば。2回目の接種で高熱を出してダウンのスタッフが続出。陳腐な言葉だが「ワクチン狂騒曲」としか言いようがない、すったもんだのどたばたの4カ月半だった。

(グループホームえん／井上暁子)

ケアサポートえん

5月10日から高齢者コロナワクチンの予約受付が始まりました。電話をかけても何時間も繋がらない、ネットでは予約が取れないなど、高齢の利用者から不安の訴えが聞かれました。自分で予約ができない方も多く、ご家族、高齢者相談支援センター、ケアマネジャーが代行して予約を取り、ヘルパーも相談を受けて連絡等であわただしくなっていました。いざ予約が取れても、どうやって行くのかがまた問題です。行ったこともない病院で予約が取れても一人では行けない方もいます。ケアマネジャーや本人からワクチンの接種での付き添いや移送サービスの依頼が増え、ケアサポでも日々対応に追われていきました。



イラスト／田島薫